

SA ホームページ「私の得意技」より転載

マジック

SA とよなか 梅津 眞

私の得意技は三つありますが、その一つ現在ボランティア活動しているマジックを紹介します。

「マジック」との出会いは1961年春です、当時、職種の関係から上司に端唄、小唄を覚えなさいと言われましたが、その気になれず、お座敷マジックを独学で始めました。いわゆる宴会でのマジックのレパートリーを広げながら続けておりましたが、1968年春の異動で職種が営業に替ったのをきっかけにマジックとは縁切れとなっております。

ところが、SA養成講座の受講中に「マジック」もボランティア資源になり得ることに気づき、32年振りに昔を思い出しながら新しいネタを仕入れ、電気、化学、物理学等の応用も取り入れ、幼稚園児から高齢者まで各世代間に通用できるマジックで交流を深めようと、昨13年5月よりSA13期の有志が集まり「SA13ふれあいマジック」を立ち上げ、梅田東生涯学習教室にて毎月一回の研修会を行っております。



小・中学校、各公民分館、障害福祉センター、その他でメンバーの応援を仰ぎながら、演技を披露すると共に一部マジックのネタ明かしも行い、参加者もマジックを体験して頂く「ふれあいの場」をもつことにしております。

私たちの「マジック」はあくまでも、ふれあいと世代間交流を目的としており「ショー」ではありません。

家庭内にある物や、廃品を利用するものもあり、費用も0～数100円と安く、誰でも出来、そして楽しめるのが特徴です。

SA ホームページ「私の得意技」より転載

どじょう掬い

平成2年頃、私は「これからの人生で社会に向けて自分が何かできるか」と考えていた時、テレビで女性がどじょう掬いを踊るのを見ました。

「これだ やってみよう」と、平成4年の秋、大阪どじょう掬い愛好会 林家三笑師匠に入門しました。ところが見るとやるのは大違いでした。しかし人の稽古をみるのは面白く、笑いが絶えない稽古場で、楽しさに惹かれて稽古を重ねました。翌春、桜花爛漫の頃、師匠に連れられて府下の養護老人ホームへ、手順だけがやっと出来る位の初舞台に対して、あたたかい笑顔と「ありがとう、楽しかったよ、また来てね。」のご声援を戴きました。



ここから本格的な芸への取り組みが始まりました。あの笑顔に応える芸を持って行きたいとこれは現在も同じ思いです。また、師匠が長年福祉施設を訪問される姿に感銘を受けました。だんだんと人に知って戴ける様になり、地域の高齢者お楽しみ会等へ活動の場を広げながら、平成9年には大阪府シルバードバイザー養成講座を受講、同期の仲間とボランティアグループ「SA北河内地域の会」を結成、多角的な活動を展開中です。

「どじょう掬い」を持って、海外へは平成9年にシドニーへ、平成14年には韓国釜山へ、衣装は忘れても、ザルとピクはしっかり持って、アラエッサッサと出かけました。

平成 15 年 2 月 27 日は、思い出多い大阪市中央公会堂において「ファインエイジ フォーラム」に出演、どじょう掬い 10 年目の私にとってうれしいステージでした。

皆様に育てられながらのささやかな芸ですが、自分らしく一つ一つの壁を自分の生きる力に変えて、喜び一杯の人生へと挑戦中です。

" どじょ よろしく "

SA 北河内 武田 キヨ子